

「生藤山」

2011年4月16日（土曜）

レポート by 熊本

3月11日震災後、再開初のハイキングは、中央線上野原駅近くにある生藤山（991m）である。

山頂付近に桜の群生があり桜越しに見る富士山が目的の企画である。参加者は戎家さん、能勢さん、高橋雄さん、熊本の4名。



上野原が東京から近いこともあり、出発はユックリであった。

高尾駅で乗り換える。大きな天狗の石像が異彩だ。

高尾駅から三つ目の駅が上野原で17分である。

上野原駅で多数のハイカーが下車した。



9:05に上野原駅集合で、井戸行きのバスに乗る。今日は気温が25度以上となる予報で今から陽射しが強い。



9:20に満席のバスは出発し約20分で終点のひとつ前の「石楯尾神社」で下車。

満員のハイカーが全員下車した。

全員が同じコースを選んだようだ。

登山身支度の準備。



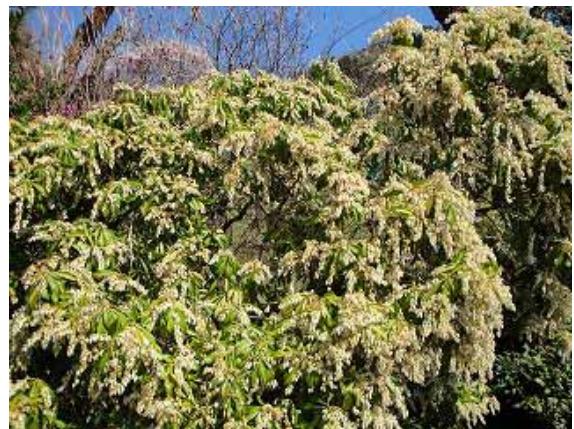
標識を囲んで記念写真を撮り登山開始する。
登山道入口までの里は、春花が一面に咲き彩
られて綺麗だ。



桃、ユキヤナギ、シダレザクラ、ヒメレンゲ（？）



ボケ



馬酔木



水仙



菜の花





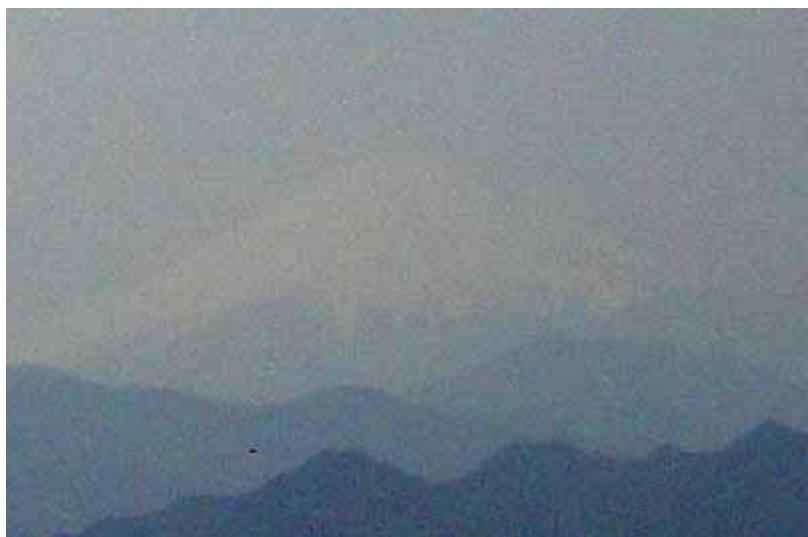
キケマン



里を 10 分ほど歩くと杉樹林帯の登山道に入る。
途端に斜度はきつくなり、汗が額から流れ落ちる。
風がなく暑い。
樹林帯の中は陽が射さなく花は登山道から姿を消した。
黙々と 40 分ほど高度を稼ぐと尾根道にでるとそこが
「佐野川峠」であった (10 : 45)。



甘草水（かんぞうすい）日本武尊が名づける



桜の大木も殆どが固い蕾で、一輪、二輪の開花程度

この場所にはベンチもあり展望が開けており、富士見の絶好のビューポイントであるが、今日は気温の上昇でモヤっており、肉眼でやっと見える程度のため写真で厳しかった。



下り道の軍刀利神社への分岐をやり過ごし、更に高度を上げる（11：17）。



三国山山頂（11：27着 960m）



三国山は東京・神奈川・山梨の3都県の県境から名付けられた。

関東ふれあいの道（富士見のみち）と標識に記載されている。

冬の寒い時期なら富士山が大きく綺麗に見えるコースだ。



山頂は、大勢の人が昼食を取っており、我々はまだ時間が早いこともあって。生藤山の山頂を目指す。

三国山から生藤山までは一旦下ってからの登りで標高差40mほどの登りであるが、岩肌がむき出しのゴツゴツした急登の連続となる。



本日の最高点生藤山（991m）の山頂で記念写真を撮る。山頂は狭く、見晴らしも良くないことから。三国山に戻ることにする。

三国山で昼食



昼食を取っていると、別のルートから数名がマウンテンバイクで登ってきてびっくり。



三国山山頂で記念写真を撮る



12:15に下山に入り、元登った登山道を暫く降りる。



7分ほど下ると「軍刀利神社」への分岐があり、このコースを取る。



ネコノメソウ



25分ほど下ると「軍刀利神社奥の院」であった。



更に15分ほど下って「軍刀利神社」に着く。



井戸のバス停に 13:20 着で予定より 30 分ほど早く到着したが、次のバスは予定していた 14:08 までなく、約 50 分待つことになるため、電話でタクシーを依頼する。

当初はバスで上野原駅に行きそこから「秋山温泉」の無料送迎バスに乗る予定であったが、やはり 1 時間ほど駅でまつことになるため、このままタクシーで秋山温泉に直行する。



秋山温泉は高アルカリ泉 (Ph9.8) で源泉温度は 37 度。大きな内湯が加熱なしの源泉掛け流しであり、人肌温度より少し温かいため長時間ユックリ浸かっていられる。

湯上りは食堂広間の一番奥に陣取り先ずは生ビールで乾杯。

上野原駅への無料送迎バスの出発 16:30 まで 2 時間以上あり。飲み続ける。

震災があったため 3 月 6 日の箱根駒ヶ岳以来のハイキングであったが、暑いくらいの快晴で、色とりどりの多数春の花が咲いて目を楽しませてくれた生藤山でした。冬に再度着てみたい山でした。

次回は 5 月 4 日～6 日で北アルプス 残雪の燕岳の予定です。

<参考リンク>

以下のページでは、我々は良く見えなかった三国山からの富士山と、山桜がレポートされています。

<http://hadachi0505.style.coocan.jp/yama/syoutou/sub1.htm>